

令和 6 年度第 3 回新型インフルエンザ等対策行動計画部会 議事概要

1 日時 令和 6 年 9 月 2 日（月） 17 時 30 分～18 時 15 分

2 開催方法 Zoom によるオンライン開催

3 出席者

【委員】（8 名出席）

オンライン：岡部委員、金井委員、川名委員、坂木委員、讃井委員、澤登委員、竹田委員、池田委員

【事務局】表保健医療部長、坂医療政策局長、本多参事兼衛生研究所長、谷口感染症対策課長、感染症対策課 企画担当

【傍聴者】一般の傍聴希望者なし

4 議題

（１）新型インフルエンザ等対策行動計画の中間とりまとめ（案）について

（２）今後のスケジュールについて

5 内容

（１）開会

（２）議題

ア 新型インフルエンザ等対策行動計画の中間とりまとめ（案）について

資料 1、2 に基づき事務局より説明した。

【質疑・意見等】特になし

- ・ 新型インフルエンザ等対策行動計画の中間とりまとめ（案）について、了承を得た。
- ・ 追加の意見等の取り扱いについて、事務局と部会長で調整することで了承を得た。

イ 今後のスケジュールについて

資料 3 に基づき事務局より説明した。

【質疑・意見等】特になし

【全体を通しての評価・意見等】

○ 委員

全体が 3 部構成になっているが、策定の経緯が明確に記載されている点と、今回のコロナパンデミックでの埼玉県の実験がレガシーとしてきちんと反映されている点が非常によいと思った。また、COVMAT や eMAT、感染管理認定看護師や専門看護師といった名称をしっかりと盛り込んでいただけたことは、将来の ICN にとって非常に価値があることであったと思っている。

今回の中間とりまとめ案を策定するに当たり、事務局に非常によくヒアリングをしていただき、中間とりまとめ案に反映していただいたことについて感謝している。

○ 事務局

委員の皆様には、お忙しい中お時間をいただき、細かいところまで御相談をさせていただいた。真摯に御対応いただいた委員の皆様には感謝している。計画を作る中で、疑義が生じたり、不明な点があった際には、また御相談することがあるかもしれないが、その際は引き続きよろしくをお願いしたい。

○ 委員

政府行動計画もよくできていると非常に感心したが、県の行動計画も抜本的にというほど細かく意見を入れていただいた。専門家の先生方の御意見も相当入っていることを考えると、非常によくできしており、埼玉県独自の優れた行動計画ができたであろうと評価している。

○ 委員

2009 年の新型インフルエンザの前から、政府行動計画やガイドライン作りに関わらせていただいたが、その頃は想像でしかパンデミック

というものを考えられなかった。今回は COVID-19 の実際のパンデミックを経て、例えばホテル療養や調整本部等、実際に苦勞した色々な経験を踏まえ、非常に現実的なガイドラインが作られていると思った。

ディスカッションの内容も記録に残していただくとのことであったが、意見対応表により、自分たちが述べたこととそれに対する県のレスポンスがきっちり記録として残っているので、こういったようなものは色々な意味で資料になると思った。

行動計画の中間とりまとめ案について、よいものができたのではないかと考えている。

○ 委員

皆様と同意見であるが、行動計画の中間とりまとめ案について、非常によくできているのではないかと考えた。

今回の COVID-19 のパンデミック前に作られたものはどうしても想像の部分があり、今回のパンデミックでは、医療や行政等、様々な分野において、リアルタイムで変更せざるを得なかった部分や全く想像や想定をしていなかった部分を、どんどん現場で埋めなければならなかったと思う。

次のパンデミックの規模や質、どのようなパンデミックが起きるのかは不明であるが、想定内のことしか起こらないということは考えにくい。実際のパンデミックで、計画した部分はまず完璧に、すぐに導入して実行できるような準備をしておかなければならないと思う。例えば、調整本部の担当医師に普段からベッドコントロールや入院患者の調整、他院とやり取りしている方を選任していただいたり、実際に発生した際の具体的なシミュレーションを行う等、できるだけリアルに行っておくことで、作った行動計画が患者にとって生きていく形になると考える。

○ 事務局

実効性のあるものにするためにシミュレーションを行うという点について、非常に貴重な御意見であると思う。訓練等を通じて、お互いの役割を常に確認していくことが重要であると考えているので、こういった形で今後も引き続いてできるかということについては、いただいた御意見を踏まえて検討を進めてまいりたい。

○ 委員

看護協会の立場で、看護協会に届く病院の看護師や保健所の保健師の声を反映したいと思って、会議の中では意見を出させていただいた。大分計画に意見を反映いただきありがたいと思っている。

次のパンデミックで計画の内容がどれだけ活かせるのかということが非常に重要であるし、また、変わっていく部分もあることを考えておかなければならないと思っている。素晴らしい内容で計画ができたと思うが、これが完璧ではないという意識で取り組んでいきたい。

準備期については事細かに色々と提案をしてあるが、内容の実現がどれだけ進むかというところのモニタリングが大事であると考え。特に物資の保管については、大変な予算がかかり、県に負担をお願いする声も上がってくるかもしれないため、モニタリングを丁寧に続けていくことに注力していただくことも大事であると考え。

○ 事務局

モニタリングについては、連携協議会を中心に定期報告をできればと考えている。また、物資の保管状況については、国が全体の確保状況を毎年確認するということであるので、足並みをそろえながら確認をしてまいりたいと考えている。また色々と御意見をいただければと思うので、どうぞよろしくお願いします。

○ 委員

皆さんおっしゃっていたとおり、全体として大変よくまとめていただいたと思う。また、意見対応表で、意見がどのように反映されたのかをきめ細かくまとめていただいております、大変評価できるのではないかと思います。実効性をどう高めるかがとても大事であるので、単なる計画で終わるのではなく、行動としてきっちり落とし込むというところをお願いしたい。

コロナの時は、国と県、それから市町村の連携について心配な点もあった。また、国の体制が変わると様々な変化があり、こういうものも例えば足踏みをするというようなことも過去にあった。新たなパンデミックの際には、国と地方がしっかりと連携できるようにしていきたい。

また、財政について、今回財政の問題は国の議論の中でもあまり踏み込まれていなかったようであるので、財政の拠出がきちっとコミッ

トされるのかどうか心配である。我々経済界としても、別の角度からそういったところをチェックし、国に要望もしていきたいと考えている。

○ 事務局

国と市町村との連携について、国からは訓練等を通じて毎年連携確認を実施するという話を伺っている。その他予算折衝等で、県の方でも話を進めてまいりたいと思っている。

また、市町村については、来年度、行動計画を作ることとなっている。その中で、市町村の声もよく聞いていながら市町村行動計画の策定に向けて進めてまいりたいと考えている。

○ 委員

行動計画案 26 ページ⑧医療の②研修・訓練による人材育成・感染症対応力の向上について、以前説明をいただいた時は、人工呼吸器や重症患者といった文言が入っていなかったか。

○ 事務局

御指摘の部分は第 2 部のサマリーの部分であり概要を示している。第 3 部が本編となっており、91 ページの 1-3 の②に委員がおっしゃる内容が記載してある。

○ 委員

ほとんどの人が目にするサマリーが一番大事であるので、サマリーに記載する必要があると考える。何度も言うが、感染症の専門家の人材を育成するのは国や県の仕事ではない。それよりも、患者を救命する医療に対しての形を整えることが大事であり、行政の感覚と医療側の感覚に乖離がある。形式上の問題であるが、文言の記載について、変えていただかなければならないと考える。

○ 事務局

第3部の表現を、サマリーにも反映できるように調整をさせていただく。

○ 部会長

2009年に新型インフルエンザが発生した時に、政府の行動計画は全自治体に渡してあったが、渡した後2か月で新型インフルエンザが発生し、それを国は説明する間もなく、自治体は解釈する間もなく、パンデミックインフルエンザが発生し大慌てであった。新型インフルエンザが終わった時に、当時の経験を反映した形で新しい新型インフルエンザ等行動計画ができたが、行政も医療も人が変わり、日が続つにつれて記憶が薄れていっている。

今回、コロナ対応の経験を踏まえ、その経験を活かすべく行動計画の改定に取り組んだが、委員各位から指摘があったように、よくまとめていただいたと思う。ただし、年月が続つと以前の感染症対応と同様、記憶が薄れていってしまう。コロナ禍の経験をきちんと引き継いでいくためには、連携と定期的な計画の見直し、定期的な訓練が必要であるとする。自治体が一番現場になって苦労するので、これでおしまいではなく、うまく引き継いでいただき、新しい計画を作っていただければと思う。

(3) 閉会